

インターネット英語の語彙力についての動機づけの考察
—英語をPC(パーソナル・コンピューター)に入力させるデックテーションの訓練から—

高橋 信弘

Dictation to motivate English learners
— Why not a keyboard with a personal computer?—

Nobuhiro Takahashi

Abstract

Today's students keyboard faster than they scribble letters being accustomed to videogames since childhood. Most of them use electronic English-Japanese dictionary in the class. Hence only naturally a teacher may hit on an idea that a lesson would be more productive, in terms of learning motivation and efficiency, if he/she tells the students to use a pc in lieu of a pencil in the drill of dictation, which follows cognitive and systematic comprehension of the general vocabulary.

This study aims to prove a hypothesis under mentioned through a series of experimental class.

Hypothesis

The objective is building vocabulary of the internet English as being frequently used for internet. The lesson consists of (a) comprehension of words by cognitive and systematic approach and (b) writing the words at a native speaker's dictation. The hypothesis: the students would be much more pleased to work and retain the words correctly if they are told to keyboard what they listen to a pc, and not to write down by hand on a piece of paper.

Practice and outcome

- 1) Group A: the students from BUNKYO University, Department of Information Science, Public information Hand-writing
- 2) Group B: the students from the same university, Management Information science Department Keyboard/PC

Outcome: Better results from the Group B. More word retention and learning motivation. Better concentration.

The students of Group B competently followed an extensive drill of dictation from single words to phrases, short sentences, and longer sentences. Thus the experiment was successful and the hypothesis was proved to a satisfactory level.

1. はじめに

英語を嫌いな学生に実利的なインターネットを活用して、英語学習に積極的に取り組ませるには、教える立場からどのように学生に興味を持たせるには何をすべきかの方法に取り組んでいる。2年前から大学のインターネット英語の授業にリスニングを導入している。ネイティブの英語を聴く訓練から、語彙力増強の動機づけを高めさせるために、PC（パーソナル・コンピューター）キーボードから英語を入力させるデクテーションとスピーチの訓練を授業の中で実施している。英語の嫌いな学生が英語に少しでも多くの興味を抱く授業の展開方法を研究している。

2. 研究の目的

本研究の目的は学生の語彙力増強とモチベーションの意欲を高めるには、下記の仮説を実践によって検証することである。

仮説：

インターネット英語における語彙習得はインターネットで活用されている一般語彙を認知体系的に理解して、その後、ネイティブの英語を聴きながら、手書きのデクテーションの訓練よりも、直接、PC（パーソナル・コンピューター）キーボードから英語をPCに入力させるデクテーションの訓練の方が、手書きデクテーションよりも語彙力増強とモチベーションの意欲を高める効果を上げさせる促進がある。

仮説を立てた理由は、学生は子供の頃からVideo-gameの操作で指の動かすのが慣れており、手に鉛筆を持って書く動作より早い。最近、英語の辞書も紙で作られた辞書よりも電子辞書の普及が拡大しており、ほとんどの学生は電子辞書を授業時間に活用している。

したがって、一般語彙を認知体系的に理解してから、英語の語彙力増強への学生の意欲は、言語使用として、手書きのデクテーションの訓練よりも、直接、PC（パーソナル・コンピューター）キーボードから英語をPCに入力させるデクテーションの訓練が自然であると思われるからである。

尚、PC（パーソナル・コンピューター）キーボードから英語をPCに入力させるデクテーションをPCディクテーションと表記する。

3. 先行研究

リスニングの訓練から英語の動機づけやデクテーションの研究は沢山ある。しかし、ネイティブの英語を耳で聴きながら英語の表現文を手書きのデクテーションする方法でなく、直接、PC（パーソナル・コンピューター）にネイティブの英語を聴きながらインプットするデクテーションを何度も繰り返す訓練から語彙力増強を図る学生の動機づけについての研究したものはない。

4. 研究方法

(1) 本論文の「本論」の構成

本研究は上記の目的を達成するために以下の章立てて論を進める。仮説の実証については第2章から第3章で論じる。

- ・序論
- ・本論

第1章 PCディクテーションから語彙指導のための枠組み

第2章 PCディクテーションの実践と結果

第3章 PCディクテーションからの動機づけ

結論

(2) 第2章の実践の概要

第2章では筆者が立てたシラバスのもとに実践を行うが、授業の対象、期間、内容と方法などは以下の通りである。

- ・授業対象者：(1)文教大学経営情報学科2年生30名
(2)文教大学情報学部情報広報学科2年生29名
- ・場所：文教大学情報学部 6202コンピューター室
- ・実施期間：2005年4月中旬～7月中旬
- ・実施方法

- (1) 事前調査：学生の語彙に対する意識と学生の語彙力
- (2) 授業実践：上記期間の計10回の授業

- ①授業時間内に、語彙の認知的な理解を促す指導とリスニングの訓練からPC入力ディクテーションとスピーチを行う言語活動
- ②語彙の認知的な理解を促す指導とリスニング から手書ディクテーションとスピーチを行う言語活動
- ③認知理解および言語活動の定着を把握するため簡単なテストを毎回行って記録していく。

- (3) 事後調査：PC入力ディクテーションから学生の語彙に対する意識がどのように変わったかを調査する。さらに、事前調査、授業実践、事後調査を合わせて分析を行い、この実践によって学生のインターネット英語の語彙習得に対する意識の向上と語彙力増強の2つが上がったことを実証していきたい。

第一章 PCディクテーションから語彙指導のための枠組み

インターネットで使用される英語の語彙は一般語彙から構成されている。したがって、一般語彙の習得が高いとインターネットの中で使用されている英語の語彙の習得も高くなることが明らかである。よって、学生に一般語彙の語彙力増強への意欲を抱かせるために、認知体系学習の理論に基づき、インターネットの中で使用されている語彙の語形成を理解させるシラバスと認知的に習得した語彙についてPCディクテーションを行う。

次にディクテーションした語彙のスピーチを通じて、学生が意欲的にコミュニケーションの中で習得した言語規則の使用を行えるような指導方法などを考案して、手書きディクテーションの指導よりもPCディクテーションの指導の方が効果が上がるシラバスの枠組みを提案する。

1. ディクテーション

Listening comprehensionと聴覚記憶テストとの関連についてHuebener (1965: 76-77)は、ディクテーションは学習者のListening comprehensionの程度と、正確に語を綴る能力を明らかにすることができる」と述べている。ディクテーションの持つ効果として、正確に聞くこと、口頭で言われたことの意味、正しい綴り、文字 (letters) の正確さの訓練になることを挙げている。

さらにインターネット英語の訓練にディクテーションの持つ言語学習における役割を利用すると、次の6項目に分析している。

- ・目的を持って聞くこと
- ・音、語、意味のまとまりを識別すること
- ・意味を理解すること
- ・文法形式を認識すること
- ・正しく語を理解すること
- ・正しい句読点を守ること

したがって、上記の分析から、認知的体系による語彙の習得として、ディクテーションの指導は英語を聴く受容語彙力を増加させ、英語を聴き取って英語を書く行為は発表語彙力を高める指導方法である。

2. PCディクテーション指導法

一般に、英語学習において、語彙は暗記して覚えると考えられている。よって、語彙力は学生の暗記した語彙の蓄積の量によって決まるとされている。確かに文法規則を学ぶ学生が語彙を暗記することは効果的であり必要でもある。

しかし、イントネーションや音の強弱を表す音声のストレスなどは文や語彙に関係する。英語学習においては語彙の形状と英語の発音は切り離すことは出来ない。したがって、語彙を暗記することは発音を除いて、一時的な語彙の文字を記憶する手段にすぎない。

発音と語彙を正しく記憶して習得するにはPCディクテーションで聴き取った語彙をスピーチすることにより受容語彙と発表語彙を使用することが出来る。PCディクテーションは英語を集中的に聴きながら、PCのキーボードに英語を入力しながら聴いた発音を英語の文字化して行くライティングである。したがって、PCディクテーションは英語の発音と語彙の記憶の訓練にもなっている。

3. 英語と日本語の比較対照して語彙の語形成を認知的に覚えさせるPCディクテーションの指導法

英語の単語レベルの語根を日本語の漢字の部首（「へん」や「つくり」）と比較して、英語の接頭語などの語形成を認知的に理解させる。このように、学生に語彙を認知的に理解させた後、英語の発音を集中的に聴きながら、PCディクテーションによって英語をライティングする訓練の方法のことである。

4. 指導シラバス

日本の英語教育な文法中心のシラバスである。学校では語彙指導に十分な時間をさくことはしない。検定教科書の語彙の発音と意味の解説で終わらせている。

シラバスの作成には語彙を認知的に理解させるために、語形成や語源などのメタ言語の理解を含めた。このシラバスには英語の語彙を最初から暗記して覚えるのではなく、認知的に語彙の語形成や語源などを理解して語彙を覚えさせる指導シラバスである。

また、一方、認知的に語彙を理解した言語を使用する場面でのスピーチやプレゼンテーションなどの言語の使用練習から語彙を覚えるシラバスで構成されている。シラバスのスケジュールは表1で示した。

表1

回数	2005年月日	Eメール	タスク	メタ言語の指導
1回	4月11日	仕事でEメール	総務	英語の語根
2回	4月18日	注文の予約	工場見学	
3回	4月25日	注文の変更	生産管理	接頭辞
4回	5月2日	商品の発注	価格交渉	
5回	5月9日	商品を受注	倉庫管理	接尾辞
6回	5月16日	欠席の詫げる	棚卸	
7回	5月23日	仕事の取消	外注管理	複合語
8回	5月30日	注文の取消	コストダウン	
9回	6月6日	伝える	リードタイム	接頭辞による反対語形成
10回	6月13日	知らせる	生産性	
11回	6月20日	会議の案内	プレゼンテーション(1)	複合名詞の分解
12回	6月27日	新製品の紹介	プレゼンテーション(2)	
13回	7月4日	商品の出荷	プレゼンテーション(3)	語形成と語源

(1) 言語使用の指導シラバスのスケジュールは表2で示した。

表2

回数	2005年	インターネットの中で使用されている英語の語彙習得目標数	外人の音声テープによるPCディクテーションとスピーチ
1回	4月11日	一般語彙のプレテスト実施	PCディクテーションとスピーチ
2回	4月18日	受容語彙数20発表語彙数10	PCディクテーションとスピーチ
3回	4月25日	受容語彙数20発表語彙数10	PCディクテーションとスピーチ
4回	5月2日	受容語彙数20発表語彙数10	PCディクテーションとスピーチ
5回	5月9日	受容語彙数20発表語彙数10	PCディクテーションとスピーチ
6回	5月16日	受容語彙数20発表語彙数10	PCディクテーションとスピーチ
7回	5月23日	受容語彙数20発表語彙数10	PCディクテーションとスピーチ
8回	5月30日	受容語彙数20発表語彙数10	PCディクテーションとスピーチ
9回	6月6日	受容語彙数20発表語彙数10	PCディクテーションとスピーチ
10回	6月13日	受容語彙数20発表語彙数10	PCディクテーションとスピーチ
11回	6月20日	プレゼンテーションの英文原稿作成	PCディクテーションとスピーチ
12回	6月27日	プレゼンテーションの発表	PCディクテーションとスピーチ
13回	7月4日	一般語彙のポストテスト	

第2章 PCディクテーションの実践と結果

第1章で認知的に学習する理論的枠組みとして、教師は学習者にインターネットの中で使用される英語の語の規則を指導し、習得すべき語を認知的に理解できるように覚えさせる。その後、その覚えた英語を使えるようにスピーチとPCディクテーションを通じて言語使用の練習させる。そして最後に、習得した英語の語彙の規則をコミュニケーションの中で使えるようにするための指導方法の理論的枠組みを論じた。第2章では認知的に学習させる指導方法と言語使用による指導方法をふまえて、(1) 実践前の学生の能力と意識調査、(2) 視覚と聴覚によるとPCタイピングの語彙数の比較、(3) PCディクテーションの実践などから認知シラバスを実践し、認知的理解と言語活動をもって行なわれることを考察する。

1、対象、実施期間、実施方法

- (1) 授業対象者：文教大学情報学部経営情報学科2年生30名
 文教大学情報学部広報学科2年生29名
- (2) 実施期間：2005年4月中旬～7月中旬
 ：授業内指導は、週1コマ(90分)、11週とする。

(3) 実践方法

事前調査：学生の語に対する意識と学生の語彙力

授業実践：上記期間の計10回の授業

具体的には授業指導案に従って、一週間に一度、授業時間90分内、一般語の認知的理解指導と一般語の言語使用指導に40分。インターネットの中で使用する英文Eメールの書き方、プレゼンテーションの英文原稿作成などの指導40分を当てる。その他の指導事項に10分当てる。授業時間内に、語彙の

認知理解及び言語活動の定着を把握するため両者とも簡単なテスト・調査を毎回行なって記録していく。

(4) PCのディクテーションの実践方法

事後調査：学生の語彙に対する意識がどのように変わったかを調査する。学生の語彙力はどのように増強したかを調査する。さらに、事前調査、授業実践事後調査をあわせて分析を行い、この実践によって学生の語彙習得に対する意識の向上と語彙能力の向上の2つが上がったことを実証していきたい。

尚、これ以降、文教大学情報学部情報学科2年生30名をクラスをAと広報学科2年生29名をクラスをBと表記する。

2. 実践前の学生の能力と意識調査

語彙力を測るテストと中学で学んだ語彙数から大学で学ぶ語彙数に対して、どのくらい語彙を知っているかを探るプリアンケートを実施する。

(1) 語彙テスト

語彙サイズテストをJACET8000 語彙テスト(資料31を参照)を採用した。実践前のクラスA/Bの語彙力のテスト結果は下記の通りであった。

JACET8000 語彙テストはJACET8000から80語のサンプルを抽出するJACET8000語彙テスト作成支援ファイルに収録された8レベルからそれぞれ10語ずつ均等に抽出されている。正答数に100をかけることで、語彙力を測ることができる。これらのテストの結果を分析する。

1. JACET8000語彙テストではクラスAとクラスBでは平均値と標準偏差は下記の図表に示すとおりである。

尚、広報学科を以下に示す広報学科をクラスAと表示する。情報経営学科を以下に示す情報経営学科をクラスBと表示する。

テストの標準偏差はほぼ同じ値である。平均値がクラスAの比率は16.2とクラスBの比率は16であるが最高点クラスA25点に対してクラスBは23点である。最低点クラスAは1点に対してクラスBは1点である。クラスAで4レベル以上の解答者10名でクラス36%に対してクラスBで4レベル以上の解答者9名でクラス35%である。

下記のグラフの表はクラスA/Bの語彙力をJACET8,000で測定した平均値と標準偏差を棒グラフで現したものである。このグラフからクラスA/Bの語彙力はほぼ同じであることが見られる。

表3 JACET8,000での平均値と標準偏差

No	テストの種類	JACET8000 (クラスA)	JACET8000 (クラスB)
	得点	80点満点	80点満点
1	平均値	16.2	16
2	標準偏差	6.4	6.1

3. 視覚と聴覚によるとPCのタイピングの語彙数

欧米の人々には英語を手書よりもタイプライターで文字を作成する慣習が古くから存在している。パソコンのタイピングする同じ行為である。パソコンのタイピングの訓練次第では視覚だけでなく聴

力を中心にパソコンのタイピングが可能であると思われる。

視覚による一定の語数（192語）を3分間で、どれだけの打数出来るのか、また、聴覚による一定の語数（192語）を6分間で、どれだけの打数出来るのか、を被験者である文教大学経営情報学科2年生30名と広報学科2年生29名の計59名による打数の3ヶ月間実施して調査した結果、下記の通りである。

表4 JACET8,000での平均値と標準偏差

語数（192語）	5月	6月	7月
視覚による打数（3分間）	20.70%	38.70%	58.10%
聴覚による打数（6分間）	6.90%	18.50%	33%

上記の表4に示されたデータから打数の3ヶ月間の聴覚による打数が5月6.9%よりは7月は33%の割りで伸びている。したがって、聴覚によるタイピングの打数が伸びるであればPCデクテーションの打数が伸びることが明らかである。

インターネットの中で使用するEメールの英文やWebを読むだけでなく、ネイティブの英語を耳で聴きながら英語を手書きによって、デクテーションをするのではなく、直接、PC(パーソナル・コンピューター)にネイティブの英語表現の語彙を聴きながらキーボードに入力するデクテーションを繰り返す訓練する。その結果、集中力と記憶力により語彙が増えて英文を理解しながら聴くのが早くなる。さらに、英語で内容を記憶する習慣を習得させることにより、語彙から短文と英文の長さを次第に長く伸ばして記憶力の増強により語彙だけでなく文章のデクテーションを行うことが出来るので、学生の語彙力増強のモチベーションが高くなることを、次のPCデクテーションの実践から考察する。

3. PCデクテーション実践方法

PCのデクテーションの実践方法

- (1) 1文ごとに聴き取りポーズの時間を空ける。学生はポーズの時間内にキーボードに聴いた英文を叩いて入力する。
- (2) 全ての英文を入力を終わったら、指定の用紙にPC画面に入力した英語を書き写す。
- (3) 聴き取った単語を弱音と強音を区別する。入力した英語の語数を数える。
- (4) 指定用紙に書き写し終わったら、パソコンの画面の単語のミスや聴き取れない単語を英語の文脈から判断してミスした単語や英文を訂正してパソコンに保存する。
- (5) PCのデクテーションで入力した英文を声に出してクラスのパートナーとスピーチの訓練する。
- (6) PCのデクテーションで入力した英文をPCのパワーポイント機能を活用してプレゼンテーションの原稿の構成文を作成する。学生は黒板の前でPCのパワーポイントを使用してプレゼンテーションを発表のスピーチを訓練する。

4. 実践後の学生の語彙サイズと意識調査

- (1) 実践前と実践後のJACET8000での測定語彙サイズの変化

JACET8000での語彙サイズテストではクラスAとクラスBでは平均値と標準偏差は下記の表5に示した。

実践前のクラスAとクラスBの標準偏差はほぼ同じ値である。実践後の標準偏差がクラスAは6.1か

ら10.4、クラスBは6.4から10.6と伸びている。クラスAとBの最高点と最低点の差は大きくない。クラスAとクラスBの英語の語彙力レベルをJACET8000を使用して測定した結果、クラスAは実践前より実践後では標準偏差、平均値の両方が伸びている。

表5 JACET8,000 (80点満点)

	クラスA			クラスB			実践後A/Bの 伸びの比較
	実践前	実践後	差 異	実践前	実践後	差 異	
被験者数	30名	30名		29名	29名		
平均値	16.2	18.3	2.1	16.0	17.8	1.8	0.3
標準偏差	6.1	10.4	4.3	6.4	10.6	4.2	0.1

(2) JACET8,000での平均値と標準偏差

実践前と実践後の語彙サイズの変化をJACET8000での平均値と標準偏差は表6に示した通りである。

表6 JACET8000での平均値と標準偏差

	JACET8,000			
	クラスA (実践前)	クラスA (実践後)	クラスB (実践前)	クラスB (実践後)
得点 (満点)	80	80	80	80
平均値	16.2	18.3	16	17.8
標準偏差	6.1	10.4	6.4	10.6

クラスA/Bの語彙力は、実践前の語彙サイズテストと実践後の語彙サイズをJACET8000のテスト問題で測定した結果、表6に示された図表からJACET8000ではクラスAは平均値が2.1%増加、標準偏差4.3%伸びている。一方、クラスBは平均値が1.8%増加、標準偏差では4.2%伸びている。

5. ディクテーション実践と成果

ディクテーションの教材として下記の会話文を活用した。教材として活用したポイントはネイティブ・スピーカーのナチュラル・スピードで対話する英語を聴き取る集中力と記憶力の能力を育成することにより、英語の音声面からストレス、イントネーション、かぶせ音、わたり音などを聴き分けられる。

(1) ディクテーションの教材

この会話はシンガポールのDHC会社の総務人事のマネイジャーであるThomas Teoと日本人社員のKenとの対話である。登場人物の音声は英国人とアメリカ人のナチュラル・スピードで対話する英語を録音したテープをヒヤリングに使用した。

General Affairs

Ken arrived at DHC Singapore and first met the personnel manager. The manager is now explaining to him DHC Singapore's work rules, family allowance , and residential allowance. Then the manager takes him to the office

of Thomas Teo, the Production Control Manager who is Ken's boss.

(Explanation of DHC Singapore's work rules)

Personnel Manager: Since you have been appointed to the staff of Production Control Division, I will introduce you to Thomas Teo, Production Control Division Manager after I brief you on our company's work rules, safety rules, and health control. Do you have any questions so far? (45秒) …ア

Ken: How long is a work a day? (2秒) …イ

Personnel Manager: 8 hours. (1秒) …ウ

Ken: What are my working hours? (2秒) …エ

Personnel Manager: From 8:30 a.m. to 5:30 p.m. (1秒) …オ

Ken: Do I work Monday to Friday? (2秒) …カ

Personnel Manager: Yes, . DHC Singapore has been on a five day work week since 1995. By the way, be sure to show your ID card to the security guard every time you enter the factory. take your time card out of the rack, punch in and return it to the rack. (30秒) …キ

Ken: When is pay day? (1秒) …ク

Personnel Manager: The 25day every month or before if the 25th falls on a Saturday or Sunday. (10秒) …ケ

Ken: Am I paid a family and residential allowance? (2秒) …コ

Personnel Manager: Yes, you are. (1秒) …サ

Ken: How many days annual leave do I get? (2秒) …シ

Personnel Manager: 10 days. (1秒) …ス

Personnel Manager: Yes. This is the DHC employees' handbook. The Work Rules are included. Its yours to Keep. Be sure to look at the pages of the employment contract and pay rules in detail. Feel free to ask me for any questions if you have. I'll tell you anything unless its prohibited. (秒) …セ

Ken: O.K. I'll go through it. (2秒) …ソ

Personnel Manager: Remember the Company has to pay for all over time work (5秒) …タ

(2) 英国人とアメリカ人のナチュラル・スピードで対話する会話文の語数とスピードの分析

表7

登場人物	会話文の位置	発話の秒数	語数
Personnel Manager:	ア	45	45
Ken:	イ	2	7
Personnel Manager	ウ	1	2
Ken:	エ	2	5
Personnel Manager	オ	1	6
Ken:	カ	2	6
Personnel Manager:	キ	30	50
Ken:	ク	1	4
Personnel Manager	ケ	10	14
Ken:	コ	2	8
Personnel Manager	サ	1	3
Ken:	シ	2	8
Personnel Manager	ス	1	2
Personnel Manager	セ	37	50
Ken:	ソ	2	5
Personnel Manager	タ	5	11
合計		144秒	226語

上記に表7に示された英国人とアメリカ人のナチュラル・スピードで対話する会話文の部分の語数は全部で226語と対話のスピードは2.4分(144秒)である。この教材をPCのディクテーションに活用した。PCのディクテーションを実施したときの学生の感想文と学生の英語力のレベルを4段階に区別して(2)から(5)の代表とする学生の聴き取りした単語の語数の実践状況を考察した。尚、単語の下に下線してある単語は学生が書いたスペルのミスであることを示す。

(3) 単語のみ記述の学生の実践状況

Lesson1, Scene1, I, Praction, After, Yesterday, Time card, 1995, Yes, have, Yes you are, Ten days, Look at, Ok, Remember, Pointed, Placation, Are, Company, We were, You, Looking out, Show you, panching, Monday to Friday, Dhc chingapol, Do you have Question, Payday, Every, month, Yes, Are, How, many, This, DHC, It's, Teach, any, question, anything

聴き取りの語数：56語

学生の感想文：

1回目はほとんど聞き取れなかったが、2回目は春セメに聞いたのを思い出して、少しは聞き取れるようになった。

また、この授業を受け始めたころよりは、集中してリスニングできるようになり、多くの単語を聞き取れるようになった気がする。それでも、まだ英語のスピードが早く感じ、正確に聞き取るのは難しい。

上記のPCのディクテーションが出来る学生の30%以上いる。彼らは6分間聴いた226語の内56語の単語をディクテーションした。入力ミスした語彙は次の3語である。PractionはProductionのミス、, panching はpunch inのミス、, Dhc chingapol はDHC Singaporeのミス。

(4) 短文を記述した学生の実践状況

Lesson1 janer face pointed staff prodaction iwonted I if wanna safty we work day you working 8 am id card timecard securty we wer Monday and mommday 1995 so for do you have question pay yes i have famiry yes you are how many days way 10day dis is contract ask many questions anything

聴き取りの語数：54語

実践の感想文：

前よりも聞き取れるようになったし、耳に残るようになったと思う。上達が自分で、わかるので楽しいし、嬉しいです。上達するのかが疑問に思っていたので驚いています。今後も、日常から英語を聞き取れることを意識して、もっと、もっと聞き取れるように頑張っていきたいと思います。

上記のPCのディクテーションは単語だけ聴き取るのではなく短い文を聴き取っている。学生の40%以上いる。彼らは6分間聴いた226語の内54語の単語は文として表現している。色々聞き取れない空所もある。入力ミスした語彙は次の5語である。janerはJanuaryのミス、PractionはProductionのミス、, saftyはsafetyのミス、securtyはsecurityのミス、famiryはfamilyのミス。

(5) 学生の実践状況

Setnit staff control after company working show Monday DHC sin

Payday pay family how many 10days point keep be look tables ask do you have

Lesson 1 January 1st Seem1 January Production control vision I want control manager Company safety half We work day 8 ours You work 5pm 8pm Show you factory pan chin and We work Monday and fly day DHC Singapore Dou you any question offer Yes I have what's payday Every month Pay family Yes you are How many days 10days This is DHC singer poll handbook Keep Look tables Ask question do you my have Anything

聴き取りの語数：101語

学生の感想文：

休みのブランクがあった為か、聞くスピードには追いつくことは出来たが、そのスピードにキーボードを叩く指が追いついていかなかった。記憶もうやむやだった。けれど集中力は出来ていたと思う。

上記のPCのディクテーションは文を聴き取れる学生は10%以上いた。6分間に聴いた226語の内、彼らは聴いた101語の単語である。これらの単語は文として表現している。聞き取れない空所もある。SetnitはSinceのミス。

(6) 学生の実践状況

Lesson 1 Since your production control I want Thomas teo after brief communy safety we work 8 hour dauy 8:30 am to 5:30 pm id card security punch in we work Monday to every month family yes you are how many get 10 days this is funbook its your be sure detail ask me question anything

聞き取りの語数：73語

学生の感想文：

記憶では、なんとなく単語は分かるものの、手がついていかず、キーボードが打てない…しかもキーボードに手間取っているうちに聞き取った単語は忘れるし、次から次へと単語は流れていくし大変だ。とりあえず感覚を取り戻したい。

上記の文を聞き取っていた学生は20%以上いた。6分間に彼らは聴いた226語の内73語の単語は聞き取れた。文として表現しているが、聞き取れない空所もある。入力ミスした単語は次の2語である。funbookはhandbookのミス、conmunyはcompanyのミス。

上記の(2)から(5)まで学生の実践状況はPCの画面に入力したディクテーション直後、同時に学生の感想文を入力したものを手直さないデーターである。表7に示された英国人とアメリカ人のナチュラル・スピードで対話する会話文の部分の語数は全部で226語と対話のスピードは2.4分(144秒)であるが、1秒当たり1.5語の発話である。これをディクテーションをする行為は集中力と記憶力の訓練になる。

6. 分析と考察

5月から7月まで手書のディクテーション、PCディクテーション、語形成と音声の強弱を認知的に理解させた後、手書とPCディクテーションをクラスAとクラスBに区別して、次のヒヤリングテストを実施した。

5月にヒヤリングテストにAppendix 5に表示されたテスト、6月ヒヤリングテストにAppendix 6に表示されたテスト、7月ヒヤリングテストにAppendix 7に表示されたテストを3種類のヒヤリング・テストを実施した。

ディクテーションした語数の幅：

0-10, 11-20, 21-30, 31-40, 41-50, 51-60, 61-70, 71-80, 81-90, 91-100に区分して点数を集計した分析したのが表7、表9、表11に表示した。その分析の特徴を捕らえるために表7から表11にあるデータを表8、表10、表12に示された棒グラフに表した。それぞれの手書のディクテーション、PCディクテーション、語形成と音声の強弱を認知的に理解させた後、手書とPCディクテーションの結果について考察する。

(1) 手書のディクテーション

表 7

語数の幅	学 科	5月(%)	6月(%)	7月(%)
0~10	経営情報	47	40	38
	広報	37	30	20
11~20	経営情報	33	35	35
	広報	33	30	37
21~30	経営情報	20	22	23
	広報	20	22	26
31~40	経営情報	0	3	4
	広報	10	17	15
41~50	経営情報	0	0	0
	広報	0	1	2

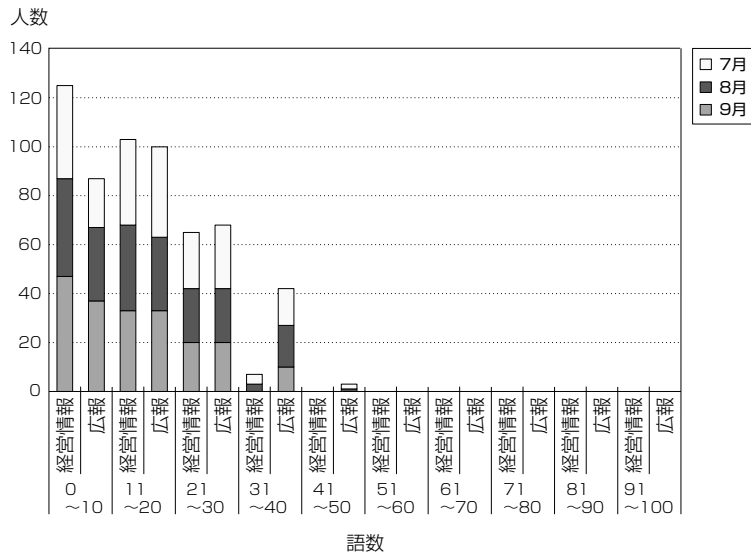
経営情報：経営情報：手書きによるディクテーション

広報：手書きによるディクテーション

注：月別の数字はディクテーションした人員の割合

5月と7月の手書のディクテーションをクラスAとBを比較するとクラスAがBより語数41-50の幅6月から7月に合計3名いるがクラスBには対象者はいない。英語の学力から見ればクラスAがBより成績の高い学生が多いところから、手書きによるディクテーションでは過去に習得した語彙力の差が現れている。

表 8



棒グラフが示すように語数の幅では0から30語の範囲に多くの人数がいる。

(2) 手書とPCディクテーションの訓練の成果の比較

表 9

語数の幅	学科	5月(%)	6月(%)	7月(%)
0～10個	経営情報	3	0	0
	広報	37	23	20
11～20個	経営情報	7	6	2
	広報	23	24	27
21～30個	経営情報	18	30	24
	広報	20	22	26
31～40個	経営情報	32	26	29
	広報	20	30	24
41～50個	経営情報	20	24	25
	広報	0	1	2
51～60個	経営情報	3	13	16
	広報	0	1	2
61～70個	経営情報	0	1	3
	広報	0	0	0
71～80個	経営情報	0	0	1
	広報	0	0	0

経営情報：キーボードに入力のPCディクテーション

広報：手書きによるディクテーション

注：月別の数字はディクテーションした人員の割合

上記の図表から手書のディクテーションと同様に5月と7月の手書とPCディクテーションの訓練の成果を比較すると、クラスBがAより語数71-80の幅の7月に1名いるがクラスAには対象者はいない。英語の学力の差よりは手書きによるディクテーションよりはPCディクテーションの訓練で行なっているクラスBの方がPCディクテーションに慣れてきた証である。

ネイティブ・スピーカーのナチュラル・スピードで毎回ヒヤリングの訓練すると、聞き漏らさない緊張から集中力が磨かれて手書のディクテーションよりも効率が良くなる。

すなわち、入力する指の位置が固定されており、固定された範囲の位置に正確に指が動くと正しい文字が入力される。一方、手書のディクテーションの場合、頭の中では聴いた語彙は理解されても文字化するのに時間がかかる。発音として記憶されても文字化が出来ず語彙を書けない学習者は少ない。

表10

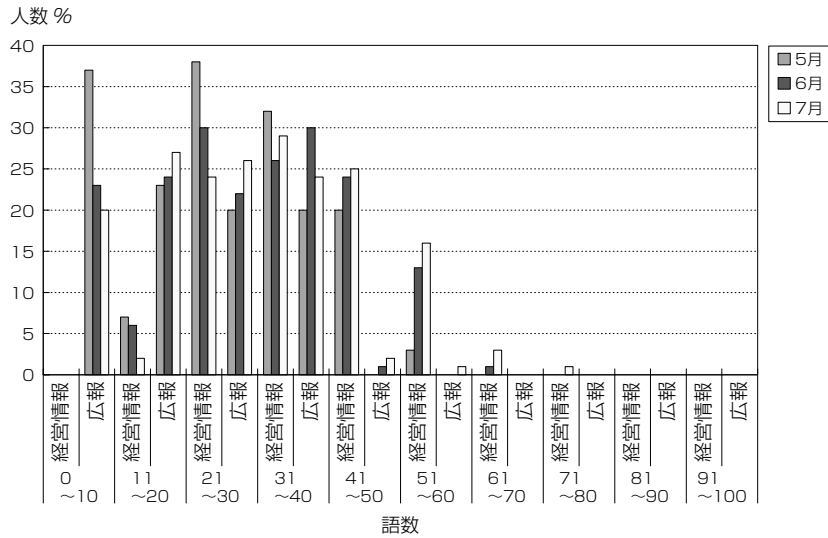


表10の棒グラフが示すように語数の幅では11から50語の範囲に多くの人数がいる。

(3) 語形成と音声の強弱を認知的に理解させた後、手書とPCディクテーションの比較

表11

語数の幅	学科	5月(%)	6月(%)	7月(%)
0～10個	経営情報	3	6	5
	広報	20	10	4
11～20個	経営情報	17	20	13
	広報	27	24	10
21～30個	経営情報	23	26	10
	広報	23	17	24
31～40個	経営情報	27	24	25
	広報	20	30	17
41～50個	経営情報	20	17	19
	広報	10	10	30
51～60個	経営情報	10	7	13
	広報	0	9	10
61～70個	経営情報	0	2	7
	広報	0	1	5
71～80個	経営情報	0	1	5
	広報	0	0	0

経営情報学科：キーボードに入力のPCディクテーション

広報学科：手書きによるディクテーション

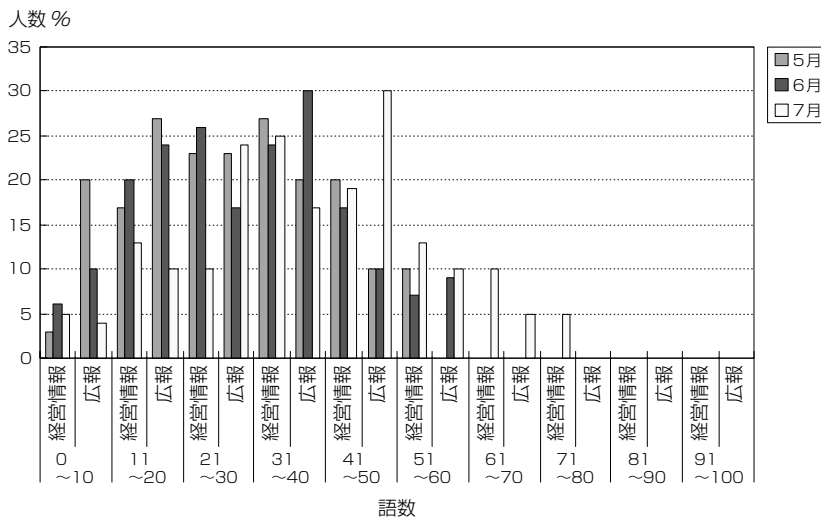
注：月別の数字はディクテーションした人員の割合

表11はクラスA／Bが5月より7月まで手書とPCディクテーション比較した図表である。

手書とPCディクテーションの訓練だけでなく、事前に語彙の語形成と音声の強弱を認知的に理解させた後、手書とPCディクテーションを実施した結果、語彙の語形成と音声の強弱を認知的に理解させた効果は現れている。表11に表示されているようにクラスBがAより語数61-70の幅の6月から7月までに合計9名いるがクラスAにも6名いる。やはり、事前に語彙の語形成と音声の強弱について認知的に理解をクラスAとBにも同じよう授業しても、手書きによるディクテーションよりはPCディクテーションの訓練で行なっているクラスAの方がPCディクテーションに慣れてきた証である。

ネイティブ・スピーカーのナチュラル・スピードで毎回ヒヤリングの訓練すると、集中力が磨かれ記憶力も手書のディクテーションより効率が良くなる。

表12



事前に語彙の語形成と音声の強弱について認知的に理解させた場合には、表12に表示した棒グラフが示すように語数は11から80語の範囲に多くの人数がいる。

3章 PCディクテーションから動機づけ

インターネットの英文のテキストを読むだけでなく、ネイティブの英語を耳で聴きながら英語を手書きのディクテーションでなく、直接、PC（パーソナル・コンピューター）にネイティブの英語の語彙を聴きながらインプットするディクテーションを繰り返す訓練から集中力が高まり語彙を理解するのが早くなり、ネイティブ・スピーカーのナチュラル・スピードで毎回ヒヤリングの訓練で発音や英語の内容を記憶する習慣をさせることにより記憶力も高まり、学生の語彙力増強のモチベーションを高まる学習意欲の変化について考察する。

(1) PCディクテーション実践前後の語彙テストの比較

下記の表13図表はクラスAとBにJACET8000のテストの語彙テストを実施した結果表である。

実践前のクラスBのJACET8000のテストでは平均値は16%に対して実践後は18.3%と2.3%増加している。しかし、クラスAでは実践前と実践後1.6%の伸びであったことはクラスBで実施しているPCディクテーションによる学習効果が生じていることが明らかである。5月の実践前ではクラスAはクラスBよりも16.2%と僅かであるが0.2%高い。この結果、大学生には手書きのディクテーションよりもPCディクテーションは語彙力増進に効果が高い学習方法である。JACET8000のテストの問題はAppendix 8を参照。

JACET8000 (80点満点)

表13

情報経営学科	実践前	実践後	差異
被験者数	30名	30名	
平均値	16	18.3	2.3
標準偏差	6.1	10.4	4.3
最高点	23	53	30
最低点	1	7	6

広報学科	実践前	実践後	差異
被験者数	29名	29名	
平均値	16.2	17.8	1.6
標準偏差	6.4	10.6	4.2
最高点	25	50	25
最低点	2	10	8

(2) 語彙に対する学生の意識

下記の表14の図表は学生のインターネット英語の学習意欲の意識調査のアンケートを集計した結果表である。詳しい内容はAppendix3を参照。意識調査の内容は(1) 英語の語彙を覚えるのが好きですか。(2) ディクテーションを通して語彙を覚えるのが好きですか。(3) スピーチを通して語彙を覚えるのが好きですか。などの視点から学生の好感度を考察する。

1. 英語の語彙を覚えるのが好きですか。

表14

		好き	どちらかといえば 好き	どちらかといえば 嫌い	嫌い
経営情報学科	実施前	3%	15%	34%	48%
	実施後	6%	22%	34%	38%
広報学科	実施前	24%	32%	29%	15%
	実施後	34%	32%	16%	18%

「英語の語彙を覚えるのが好きですか。」との質問にクラスAは「嫌い」と反応したのが「好き」と答えた割合より少ない。逆にクラスBは「嫌い」よりは「好き」と答えた割合が圧倒的に多い。これは英語に対しての過去に経験から英語の語彙学習や語彙力からの印象から答えている。

2. ディクテーションを通して語彙を覚えるのが好きですか。

表15

		好き	どちらかといえば 好き	どちらかといえば 嫌い	嫌い
経営情報学科	実施前	1%	16%	36%	47%
	実施後	3%	23%	40%	34%
広報学科	実施前	23%	33%	23%	21%
	実施後	25%	36%	21%	18%

表15の質問内容はディクテーションはネイティブ・スピーカーのナチュラル・スピードで毎回ヒヤリングの訓練の体験から答えたデータを集計したものである。クラスAは「好き」と「嫌い」の反応した格差は大きい。「好き」と答えたデータは実践前は1%であるが、実践後は3%である。この3%はネイティブ・スピーカーのナチュラル・スピードで毎回ヒヤリングの訓練の成果である。「嫌い」が5%も減少している。

3. スピーチを通して語彙を覚えるのが好きですか。

表16

		好き	どちらかといえば 好き	どちらかといえば 嫌い	嫌い
経営情報学科	実施前	0%	5%	50%	45%
	実施後	1%	5%	55%	39%
広報学科	実施前	27%	18%	49%	6%
	実施後	27%	23%	46%	4%

表16はディクテーションで覚えた単語を使って文を作成してスピーチする言語使用の訓練である。クラスAは「好き」と「嫌い」の反応した格差は大きい。「好き」と答えたデータは実践前は0%であるが、実践後は1%である。この1%は毎回ヒヤリングした後、スピーチの訓練の成果である。

(3) 認知的に習得した語彙に対しての学生の感想

語彙を認知的に理解して学習する行為が好感度がデーターに示されたように7月は伸びている。学生の感想は以下の通りである。

1) ディクテーションに対しての学生の意識

ディクテーションは音声で文字で書き取る練習で聞く力、書く力、語彙力、文法能力などを総合的に伸ばして、さらに、言語使用の正確さを高める効果があると考えられている。

50人の学生のアンケートから言語使用の学習方法の反応

1) 語彙とディクテーションは好きですかの質問に対して語彙の場合、好き (6人12%)、どちらといえば好き (19人38%)、どちらといえば嫌い (16人32%)、嫌い (1人18%)、次に、ディクテーションは好き (5人10%)、どちらといえば好き (20人40%)、どちらといえば嫌い (19人38%)、嫌い (6人12%) であった。

2) PCディクテーション体験から学生の感想

ディクテーションに対しての学生の感想は以下の通りである。

1. PCディクテーションで語彙の記憶がし易いなり、もっと語彙を増やしたい。18名
2. PCディクテーションで単語や短い英文を書けるようになったのでやる気が出た。16名
3. PCディクテーションによってコンピューター操作が早くなる。25人
4. ヒヤリングの集中力がついて英語が解る。28人
5. PCディクテーションによって早く英語をタイピング出来て仕事に役立つ。29人
6. 英語を認知的に理解した後に、PCディクテーションによって集中して記憶が良くなった。27人
7. PCディクテーション、スピーチ、プレゼンテーションなどから訓練は英語が覚えやすい。20人
8. まだ手書がやりやすいが、早く、PCディクテーションによって早く英語のタイピングに慣れたい。12人
9. PCディクテーションはキーボードを見ないで早くスピードを上げて入力出来るようになり、早く単語を捕らえられる。28人
10. 10本の指で英語の文字のすべて綴れるのでPCディクテーションに興味が出てきた。将来、社会でPCディクテーションは役立つ。29人
11. PCディクテーションで英語の授業に集中できるようになった。27人
12. PCディクテーションで出席取るので、欠席する気持ちがなくなった。8人
13. 英語の授業にコンピュータを活用するので授業が楽しい。29人
15. PCディクテーションで単語が覚えるので、TOEICの勉強しやすくなった。25人
16. PCディクテーションが慣れたことにより単語のミスが減少した。28人
17. 手書よりPCディクテーションの方が英文を覚えられる。27人
18. キーボードを見ないで早く英文を入力出来るようになり、早く文脈を捕らえられる。10人

3) スピーチ対しての学生の意識

スピーチの練習にはディクテーションから出題した語彙の全文を何度も練習を実践した後、その結果、50人の学生のアンケートから言語使用の学習方法の反応は1) スピーチは好きですかの質問に対して好き (7人14%)、どちらといえば好き (20人40%)、どちらといえば嫌い (21人42%)、嫌い (2

人4%)、である。

語彙に対する意識はコミュニケーション意識の学生の感想は以下の通りである。

1. 語彙を丸暗記して覚えるよりも認知的に語彙を理解して覚えてからスピーキングで英語の単語や短い英文を正しく書けるようになった。20人
2. 語彙を丸暗記して覚えるよりも認知的に語彙を理解して覚える方がスピーキングで楽しく英語を正しく理解して聞こえるようになった。15人
3. 認知的に語彙を理解して覚える方が英語でスピーキングが出来るようになった。13人
4. stressの音声が解りヒヤリングの改善になった。23人
5. 語形成の特徴と発音を認知的に覚えたので、長い単語もPCディクテーションで覚えられる。15人
6. 英語の発音を結びつて、長い英文もPCディクテーションとスピーチで覚えられる。5人

(4) PCディクテーション体験の感想文から考察

1) PCディクテーションの最初の感想文

1. テープの英語がすごく早く感じました。文の冒頭しか聞き取れなくて、一文全部を聞き取るの英語がすごく早く感じました。文の冒頭しか聞き取れなくて、一文全部を聞き取るのは、ほんの少ししかできなかつたです。
2. タイピングも遅く、間に合わない。聞き取れていてもスペルが分からず書き込めないこともある。
3. 何を言っているか聞き取れなかつた。早く打ち込めないから次に言っていた事が耳に入らないし、打ち込んでいるうちに単語を忘れてしまった。

2) PCディクテーション体験後の感想文

1. 3月までヒヤリングの勉強の仕方は、ただ聴いたり、聴いて問題などを解くというやり方でした。5月からインターネット英語を耳で聴いて手でコンピューターで打つというやり方は初めは慣れなくてびっくりしたけど、やっていくうちにどんどん慣れていきました。そしてだんだんと楽しくなりました。
2. PCディクテーションによって普段の生活や英語の単語集に載っているような良く使われる単語だけではなく、毎回の授業で使うインターネット英語の資料の文などで使われる業界の単語を覚えることが出来てとても勉強することが出来ました。また、耳を使って聴き、手を使って打ち、また紙に単語を写すという作業が単語を覚えやすくしたと思いました。
3. PCディクテーションによって普段の生活ではあまり意識しない、集中力や記憶力を鍛えることが出来てとても良かったです。

上記の1)と2)感想文は最初に手書のディクテーションからPCディクテーションに切り替え訓練のスタートの印象である。ネイティブ・スピーカーのナチュラル・スピードのヒヤリングで聞き漏らさない緊張から指が動かずディクテーションに効率が悪い学生も多い。

すなわち、入力する指の位置が固定されており、固定された範囲の位置に正確に指が動くと正しい文字が入力されることに十分に理解できない学生が少なくない。一方、頭の中では聴いた語彙は理解されても文字化するのに時間がかかる学習者は少なくない。

ネイティブ・スピーカーのナチュラル・スピードのヒヤリングに慣れてきたので聞き漏らさない緊

張が弱く指が動かすことが速く効率が7月から良くなっている。

学生の入力する指の位置が固定されており、固定された範囲の位置に正確に指が動く訓練の成果である。記憶力や集中力の訓練にPCディクテーションが活用されるとネイティブ・スピーカーのナチュラル・スピードのヒヤリングの学習にも役立って、正しい文字が入力されることになる。

すなわち、感想文に述べられているように学生のモチベーションが向上したことが明らかである。なお、詳しい学生の感想文は資料のAppendix 8を参照。

結 論

1. 本研究のまとめ

学生の語彙力増強とモチベーションを高めるには、インターネット英語を聴きながら手書きのディクテーションの訓練よりも、直接、PC（パーソナル・コンピューター）キーボードから英語をPCに入力させるディクテーションの訓練が効果を上げることについて下記の実施した結果から検証された。

1. 語彙力増強

(1) PCのディクテーションの実践と結果からPCディクテーションは手書PCディクテーションより7月時点で語数の幅71～80個の範囲で1%高い。

(2) 語形成と音声の強弱を認知的に理解させた後、PCディクテーションの訓練した学科の方が7月時点で語数の幅71～80個の範囲で5%高く、リスニングの記憶力も改善された。

2. モチベーション

(1) 語彙の小テストや語形成と音声の強弱を認知的に理解させた後、PCディクテーションの訓練は、語彙力増強に役立っている。

(2) PCディクテーション体験からの動機づけについての表15のアンケートに示されたデータや、学生の感想文の意見からも多く述べられているように学生のモチベーションが向上したことが明らかである。

3. 実践前では広報学科は語彙テストの点数が情報経営学科より高いが、実践後では、わずがであるがPCディクテーションを訓練した情報経営学科の方が広報学科より標準偏差の差異0.1%と語彙テストの点数が良い。したがって、情報経営学科の学生の実践前より実践後は4.3%の差異である。語彙力が増加したことを意味する。

2. 本研究の応用

英語を嫌いな学生が実利的なインターネットによる英語学習に動機づけつながらるところのリスニングを集中させるPCディクテーションの訓練が適応していることを検証した。

次世代のTOEFLテストにキーボードから解答を入力させるTOEFLテストシステムが2006年から開始される。

今後は語彙力増強やEメールのライティングの訓練だけでなく、次世代のTOEFLテストにキーボードから解答を入力させる訓練にも役立つTOEFLテストに適応したPCディクテーションの動機づけ、指導方法などの授業研究に取組みたい。

参 考 文 献

- 荒木源博 (1989) 『英語語彙の文化誌』 研究出版
- 板倉 健 (1986) 「ダイクテーションのための教材開発とその効果」『金沢工業大学研究紀要』 BNo.9
- 垣田直巳ほか (1990) 『英語教育研究ハンドブック』 大修館書店
- 門田修平ほか (2003) 『英語のメンタルレキシコン』 (株)松柏社
- 影山太郎, 由本陽子 (1997) 『語形成と概念構造』 研究出版
- 基本語彙改定委員会 (2003) 「JACET8000」『大学英语教育学会基本語リストJACET List of 8000 Basic Words』 大学英语教育学会
- 岸本映子 (2002) 「認知アプローチによる英語の名詞の「数」に関する指導『言語文化教育学の可能性を求めて』三省堂
- 小屋多恵子 (2002) 「日本人学習者の英語コミュニケーション能力に与える日本語の影響『日本実用英語学会論叢 (第10号)』 日本実用英語学会
- 高梨庸雄, 卯城祐司 (2000) 「語彙指導」『英語リーディング事典』 研究社出版
- 高橋信弘 (2002) 「英文契約書におけるhere-/there-の語彙—実態調査から—」『日本実用英語学会論叢 (第10号)』 日本実用英語学会
- 高橋信弘 (2002) 『仕事現場の英会話—製造業編』 DHC
- 投野由紀夫 (1997) 『英語語彙習得論』 河源社
- 村野井仁, 千葉元信, 畑中 孝 (2001) 『実践的英語科教育法』 成美堂
- 村田 年 (2002) 「新指導要領の語彙制限がもたらすもの」『英語教育』 大修館書店vol50
- Krashen, S (1984). *The input hypothesis: Issues and implications*, New York: Longman
- J.C.Catford.1980. *A Linguistic Theory of Translation*. Oxford University Press
- Michael, Mccarthy.2000. *Discourse Analysis for Language Teachers*. Cambridge
- Nation, I.S.P.(1990). *Teaching and learning Vocabulary*. New York :Newbery House.
- Nation,I.S.P.(2001). *Learning Vocabulary in Another Language*. Cambridge: Cambridge University Press.in
- Publication Data vol.56/4, Oxford University Press
- Rivers,W.G (1979) *A practical guide to the teaching of English as a second or foreign language*.Oxford:OUP

参考資料

Appendix 1

(1) 事前の確認アンケート

下記の質問項目に該当するところを○印を付けてください。

記述回答者 () に人数をのせた。

1. 英語の語彙を覚えるのが好きですか。
- a. 好き (3名) b. どちらといえば好き (8名) c. どちらといえば嫌い (20名) d. 嫌い (23名)
- [好きな理由]
- 特にない (40人)
- [嫌いな理由]
- 文法が嫌い (20人)、英語の点数が悪い (18人)

2. 英語のディクテーションを通して語彙を覚えるのが好きですか。

- a. 好き (1名) b. どちらといえば好き (4名) c. どちらといえば嫌い (24名) d. 嫌い (23名)

[好きな理由]

特にない (46人)

[嫌いな理由]

単語が知らない (26人)、文法が知らない (13人)

3. 英語のスピーチを通して語彙を覚えるのが好きですか。

- a. 好き (5名) b. どちらといえば好き (12名) c. どちらといえば嫌い (15名) d. 嫌い (22名)

[好きな理由]

特にない (42人)

[嫌いな理由]

単語が知らない (27人)、英語が話せない (13人)、文法が知らない (11人)、

4. 英語のコミュニケーションを通して語彙を覚えるのが好きですか。

- a. 好き (1名) b. どちらといえば好き (3名) c. どちらといえば嫌い (20名) d. 嫌い (30名)

[好きな理由]

特にない (48人)

[嫌いな理由]

英語が話せない (20人)、文法が知らない (10人)、単語が知らない (20人)

(2) 事後の確認アンケート

1) 英語のディクテーションを実施しないクラス

下記の質問項目に該当するところを○印を付けてください。

記述回答者 () に人数をのせた。

1. 英語の語彙を覚えるのが好きですか。

- a. 好き (3名) b. どちらといえば好き (8名) c. どちらといえば嫌い (20名) d. 嫌い (23名)

[好きな理由]

特にない (40人)

[嫌いな理由]

文法が嫌い (20人)、英語の点数が悪い (18人)

2. 英語のディクテーションを通して語彙を覚えるのが好きですか。

- a. 好き (1名) b. どちらといえば好き (4名) c. どちらといえば嫌い (24名) d. 嫌い (23名)

[好きな理由]

特にない (46人)

[嫌いな理由]

単語が知らない (26人)、文法が知らない (13人)

3. 英語のスピーチを通して語彙を覚えるのが好きですか。

- a. 好き (5名) b. どちらといえば好き (12名) c. どちらといえば嫌い (15名) d. 嫌い (22名)

[好きな理由]

特にない (42人)

[嫌いな理由]

単語が知らない (27人)、英語が話せない (13人)、文法が知らない (11人)、

4. 英語のコミュニケーションを通して語彙を覚えるのが好きですか。

a. 好き (1名) b. どちらといえば好き (3名) c. どちらといえば嫌い (20名) d. 嫌い (30名)

[好きな理由]

特になし (48人)

[嫌いな理由]

英語が話せない (20人)、文法が知らない (10人)、単語が知らない (20人)

Appendix 2

2) 手書のディクテーションを実施クラスのアンケート

下記の質問項目に該当するところを○印を付けてください。

記述回答者 () に人数をのせた。

1. 英語の語彙を覚えるのが好きですか。

[好きな理由]

[嫌いな理由]

2. 英語のディクテーションを通して語彙を覚えるのが好きですか。

[好きな理由]

[嫌いな理由]

3. 英語のスピーチを通して語彙を覚えるのが好きですか。

[好きな理由]

[嫌いな理由]

4. 英語のコミュニケーションを通して語彙を覚えるのが好きですか。

[好きな理由]

[嫌いな理由]

学生の意識をはかるアンケートのまとめ表

1) 英語のディクテーションを実施しないクラス

質問事項	事前確認				事後確認			
	a	b	c	d	A	B	C	D
英語の語彙を覚えるのが好きですか								
PC活用して英語のディクテーションを通して語彙を覚えるのが好きですか。								
英語のスピーチを通して語彙を覚えるのが好きですか								
英語のコミュニケーションを通して語彙を覚えるのが好きですか。								

2) 英語のPC・ディクテーションを継続の実施したクラス

質問事項	事前確認				事後確認			
	a	b	c	d	A	B	C	D
英語の語彙を覚えるのが好きですか								
PC活用して英語のディクテーションを通して語彙を覚えるのが好きですか。								
英語のスピーチを通して語彙を覚えるのが好きですか								
英語のコミュニケーションを通して語彙を覚えるのが好きですか。								

Appendix 3

インターネット英語の学習意欲調査

学年：

クラス：_____

学籍番号：_____

氏名：_____

次の質問に対して自分の考えをa, b, c, d, e,の記号の中から一つ選んで、選んだ記号に○をつけなさい。

①. 英語のリスニングが大学1年生頃より好きになりましたか。

- a. 好きになった ()
- b. どちらかといえば好きになった ()
- c. 変わらない ()
- d. どちらかといえば嫌いになった ()
- e. 嫌いになった ()

②. インターネット英語のリスニングするのが楽しくなったとおもいますか。

- a. 大いに思う ()
- b. 少し思う ()
- c. 変わらない ()
- d. あまり思わない ()
- e. 全然思わない ()

③. インターネット英語をリスニングしながら英語を手書することが楽しくなったとおもいますか。

- a. 大いに思う ()
- b. 少し思う ()
- c. 変わらない ()
- d. あまり思わない ()
- e. 全然思わない ()

④. インターネット英語をリスニングしながら英語を手書するよりコンピュータに直接インプットするのが楽しくなったとおもいますか。

- a. 大いに思う ()
- b. 少し思う ()
- c. 変わらない ()
- d. あまり思わない ()
- e. 全然思わない ()

⑤. インターネット英語をリスニングしながら英語をコンピュータに直接インプットする時に、キーボードの文字を見てインプットしますか。

- a. 完全にキーボードの文字を見ないでインプットしている。 ()
- b. ほとんどキーボードの文字を見ないでインプットしている。 ()
- c. 時々キーボードの文字を見てインプットしている。 ()
- d. ちょっとキーボードの文字を見てインプットしている。 ()
- e. キーボードの文字を見てインプットしている。 ()

⑥. インターネット英語をリスニングしながら英語を手書するよりコンピュータに直接インプットするのが好ですか。

- a. 好きになった ()
- b. どちらかといえば好きになった ()
- c. 変わらない ()
- d. どちらかといえば嫌いになった ()
- e. 嫌いになった ()

⑦. インターネット英語をコンピュータに直接インプットする時に集中して緊張して聴いていますか。

- a. 大いに思う ()
- b. 少し思う ()
- c. 変わらない ()
- d. あまり思わない ()
- e. 全然思わない ()

⑧. インターネット英語の単語をコンピュータに直接インプットする時、4月より楽しくなったとおもいますか。

- a. 大いに思う ()
- b. 少し思う ()
- c. 変わらない ()
- d. あまり思わない ()
- e. 全然思わない ()

⑨. インターネット英語の文章をコンピュータに直接インプットする時、4月より楽しくなったとおもいますか。

- a. 大いに思う ()
- b. 少し思う ()
- c. 変わらない ()
- d. あまり思わない ()
- e. 全然思わない ()

⑩. コンピュータで英語を覚えることが好ですか。

- a. 好きになった ()
- b. どちらかといえば好きになった ()
- c. 変わらない ()
- d. どちらかといえば嫌いになった ()
- e. 嫌いになった ()

⑪. コンピュータにて英語のプレゼンテーションすることが前よりも楽しくなったとおもいますか。

- a. 大いに思う ()
- b. 少し思う ()
- c. 変わらない ()
- d. あまり思わない ()
- e. 全然思わない ()

⑫. 仕事でインターネット英語をコンピュータに直接インプットする技術力は重要とおもいますか。

- a. 大いに思う ()
- b. 少し思う ()
- c. 変わらない ()
- d. あまり思わない ()
- e. 全然思わない ()

⑬. インターネット英語を覚えることは英米人とのコミュニケーションに役たつとおもいますか。

- a. 大いに思う ()
- b. 少し思う ()
- c. 変わらない ()
- d. あまり思わない ()
- e. 全然思わない ()

⑭. コンピュータのパワーポイントで英語のプレゼンテーションすることが前よりも楽しくなったとおもいますか。

- a. 大いに思う ()
- b. 少し思う ()
- c. 変わらない ()
- d. あまり思わない ()
- e. 全然思わない ()

⑮. インターネット英語の習得で語彙が増加したとおもいますか。

- a. 大いに思う ()
- b. 少し思う ()
- c. 変わらない ()
- d. あまり思わない ()
- e. 全然思わない ()

⑩. 3分間でインターネット英語の語彙を何個の数をインプットしますか。

- a. 300語 ()
- b. 150語 ()
- c. 100語 ()
- d. 50語 ()
- e. 30語 ()

⑪. コンピュータで英語のEメールを覚えることが好ですか。

- a. 好きになった ()
- b. どちらかといえば好きになった ()
- c. 変わらない ()
- d. どちらかといえば嫌いになった ()
- e. 嫌いになった ()

⑫. ビジネスに関連したインターネット英語を学習してビジネス英語を覚えたいとおもいますか。

- a. 大いに思う ()
- b. 少し思う ()
- c. 変わらない ()
- d. あまり思わない ()
- e. 全然思わない ()

Appendix 4

Appendix 5

第1回テスト

単語数158語

How should factories dispose of CO₂ emitted in the process of manufacturing products? One suggestion is to bury CO₂ under the sea. This diagram shows how this can be done.

A factory emits CO₂ through its chimneys. The CO₂ emitted from the factory is gathered, pressurized and cooled until it becomes liquid. Thus, CO₂ gas is first transformed into liquid form so that it can be transferred more easily.

Next, this CO₂ liquid must be transferred offshore. A tanker is used to transfer this CO₂ to a processing plant built on the sea.

The processing plant changes the CO₂ liquid back into gas, and this gas is sent though a pipeline to the seabed. It is then buried about 1,000 meters below the seabed.

Thus, CO₂ emitted from a factory can be buried under the sea by means of o unique process. This is one solution to the problem of emission of CO₂, which can cause environmental problems.

Appendix 6

第2回テスト

単語数204語

- The production of beer in the USA is about four times (as much as) that of England.
The production of beer in England is about one-fourth (as much as) that of the USA.
- The production of beer in the USA is nearly three times (as much as) that of the USA.
- The production of beer in Japan is nearly one-third (as much as) that of the USA.
- The production of beer in the USA is almost twice (as much as) that of Germany.
The production of beer in Germany is almost half (as much as) that of the USA. Of the four countries, the USA is the largest beer producer, producing 240 billion litres. Germany comes second, with 110 billion litres. This figure is almost half that of the USA. Japan follows with 70 billion litres. This amount is one-third that of the USA.
The production of beer in England is 60 billion litres. This amount is the smallest of the four countries. However, the difference between England and Japan is not so large.
Beer production in England is one-fourth that of the USA, and almost half that of Germany.

Appendix 7

第3回テスト

単語数232語

This graph shows sales of computers in three Asian countries, China, Thailand and Taiwan, from January 2000 to July 2001. These three countries show different sales trends.

Sales of computers in China have been steadily increasing. Sales rapidly increased from 10 million in January 2000 to 13 million in April. From April. From 2000 to April 2001, there was a gradual rise and then sales rose rapidly again to 17 million during April and July of 2001. To sum up, sales of computers in China show a constant rise during this entire period.

Next, let's look at Taiwan. In January 2000, sales were just under 9 million. The figure rose dramatically from 9 million in January to 12 million in April. In April it reached a peak and then dropped rapidly. It continued to drop until January 2001. It rose slightly until April, but dropped again and April 2000, there was very little change, but sales began to drop gradually and the trend continued until October. Sales then began to rise and the trend continued until July. In total, sales of computers in Thailand dropped once but started to rise in October 2000 and showed a steady rise until July 2001.

In conclusion, Taiwan has for the most part shown a constant drop in sales, while China has shown a steady rise. Sales in Thailand dropped once, but began to rise again

Appendix 8

PC入力英語のデクテーションの感想文

1. ヒアリングというのは自分はあまりやったことがなかった。高校の時英検でヒアリングをやったぐらいでこの授業のような、まして、パソコンに文章を聞いてそれをそのままパソコンに打ち込むというのは今まで体験したことのない世界だったので、最初はすごく戸惑ったのを覚えている。

ただ、やっていくうちにタイピングになれてくると、手書きよりこっちのほうが断然早くできることがわかった。ただ、やはり一朝一夕では、ヒアリングもタイピングもマスターできるわけがないと思っていたので、「授業以外で自分で勉強することも必要なんだな」ということを痛烈に感じた。できれば次 Semester もこの授業を取りたいと思う。話すことも大事だが、まず第一に聞き取り、理解することが大切なことだということが、自分がこの授業を通じて一番に感じたことです。

2. 私が中学校と高校としてきたヒアリングは、全般的に短文で、スピードも遅くてしゃべっている人も日本人の先生とか、外国人がゆっくりとしたテンポでしゃべっているテープとかでした。

それに比べ、このインターネット英語で使っていたものは、ネイティブスピーカーによる生の早さ、生の発音で今までやったことはなかったってこともあるし、正直難しいと思いました。けど実際使うときはネイティブの方が相手なわけだし、今までのやり方では、全くとは言わなくても通用しないのかなと感じました。4月の時と比べても、少ししか上達は見られないが、続けていくことでもっとヒアリング自体も楽しくなるし、苦じゃなく学んでいけると思います。

この春学期、毎回ヒアリングからタイピングをしてきて、多少の語彙は増加したと思う。しかし、私はタイピング自体慣れなくて、ブラインドタッチがほとんどできません。たとえ英語が聞き取れなくても、打ち込むことが間に合わず、ついていけなくなってしまふことがほとんどでした。だから、もっとキーボードの位置を指が覚えていれば、2倍も3倍も上達ができたんじゃないかと思います。

3. インターネット英語の授業を受けて、自分のヒアリング能力のなさに気づきました。普段英語聞く機会があまりないので、授業で行われるヒアリングではあまり英単語を聞き取ることができませんでした。しかし授業で何回もヒアリングを繰り返し行っていたので、春学期の最初のころよりはヒアリングの力はついたと思います。ヒアリングで大切なことは英語をたくさん聞くということが分かったような気がします。

4. 今まで高校でやってきたような、手書きのヒアリングに比べて今回のインターネット英語ではパソコンのタイピングの練習にもなっていていいと思った。今まではまだ慣れていないから手書きの方が文字数が多くなってしまふけど、練習してもっと早く打つことが出来るように練習していきたい。インプットディクテーションによって単語力が上昇したことについては何度も何度もやることによってだんだんはやく打てるようになってきたし、ネイティブスピーカーの弱音や強音を注意して聞き分けるにより、続けて練習すればもっと聞き取れるようになると思う。

インプットディクテーションが手書きのディクテーションに比べて集中力や記憶力があつた。自分が聞き取れないところを確認したりしていくうちに、自分が出来ない所が見えてきた。これからも続けていって、ヒアリングもインプットする力も高めていきたいと思った。この授業で Power Point を使ったプレゼンを実際にやってみてとても役に立ったと思います。ちゃんとプレゼンをしたことがなかったので勉強になったし、社会に出ても役に立つことだと思うので本当にいい経験になりました。

5. 高校時代までのヒアリングは、CDやテープなどを聴いてその質問に答えるなど、QAの型が多かつ

た。今回の授業ではA→A聞いた物をそのまま、INPUTする型であった。そして同じことを何度も繰り返すことにより、段階を踏んで徐々に、INPUTできる語数や、聞き取れる語数がふえていった。Q→A型だと、冠詞などが聞き取れなくても、答えが出てしまい、聞き取れなかった単語はそのままになってしまうが、A→A型であればくまなく聞けるようになると思う。

わからない単語でも、聞いたとおりに入力してみる。答えをみて、「この単語だからああいう発音なんだ。」と確認。その繰り返しを何度もおこなったので語彙力が増えたのだと思う。

手書きは頭を使う。キーボードは、一押しで一文字できるので、スピード感もあり、文字キーの場所を覚えていれば、頭を使わずに文字が打てる。だからキーボードで入力する場合、頭では「聞き取りから記憶」への作業でからは「思い出しからINPUT」の作業をすることが出来るので集中でき、容量もよくなる。

6. 今までヒアリングの勉強の仕方は、ただ聴いたり、聴いて問題などを解くというやり方でした。インターネット英語を耳で聴いて手でコンピューターで打つというやり方は初めは慣れなくてびっくりしたけど、やっていくうちにどんどん慣れていきました。そしてだんだんと楽しくなりました。

INPUTデクテイションによって普段の生活や英語の単語集に載っているような良く使われる単語だけではなく、毎回の授業で使う資料の会話文などで使われる業界の単語を覚えることが出来てとても勉強することが出来ました。また、耳を使って聴き、手を使って打ち、また紙に単語を写すという作業が単語を覚えやすくしたと思いました。

また、INPUTデクテイションによって普段の生活ではあまり意識しない、集中力や記憶力を鍛えることが出来てとても良かったです。

またプレゼンテーションで発表することもなかなか経験することが出来ないのでもとても良い経験になりました。

7. 今までのヒアリングは、設問を解きながらするものだったのである程度流れる文の内容が予想されるものでした。

今回のものは、完璧に聞きとりのみだったので最初は全くついてゆけず、単語単語でしかわからず、英文がみえてみませんでした。今では手書きとほぼ変わらない速さになり、大変よかったです。

語彙力は、単語数としてはあまり増えたとは思いませんが、ヒアリングにより、日本訛り英語ではない本物の発音に多く触れることができたので、『聞き取り』での語彙力は増えたのだな、と思います。

集中力は大分増したと思います。聞きとったことを「忘れないように、忘れないように」と集中することにより、同時に記憶力も上ったのではないかと思います。

全体として、“ヒアリング→インプット”という作業は、私のためにとっても良いものだったと言えます。

8. この授業を受けて、自分のヒアリングや語彙力、タイピング力のなさを改めて痛感した。これまで受けてきた英語の授業の英語とは違って外人の日常会話はとてもスピーディで、聞き取るだけでも大変だったのに、それをタイピングして行くという作業はとても大変だった。しかし、春学

期の授業をとして少しずつタイピングやヒアリングの力が増してきていることを実感することができた。語彙力のほうも集中してタイピングしていくことによりだんだんまして行くことが出来た。秋学期でもこの作業を繰り返すことでさらに力をつけていきたいと思う。

9. 久しぶりのディクテーションだったのであまり出来ないかと思ったけど、結構出来ていたので嬉しかったです。ディクテーションでは集中力が高まるし、単語力がつくのでとてもいいと思いました。

また、前回に比べて集中力が高まった気がするし、記憶力も良くなって前よりも単語力がついたと思いました。後期は、前期よりも、もっと頑張ってたくさんの単語を打てるように頑張りたいです。

10. 前期よりかなり集中力が高まった。英語を打つことに手がなれてきたことが感じられた。その結果、前期より単語数が約15パーセント増えた。もし、将来職業に就いたとき、生かせるのではないかと思う。あと、目標は、聞いた単語を正しく打ち込むことである。

Appendix 9

JACE8000語彙テスト問題（均等抽出）

下記の単語を日本語に直せ

語彙のレベル	問題
Lev. 1	in
Lev. 1	right
Lev. 1	head
Lev. 1	white
Lev. 1	lie
Lev. 1	dead
Lev. 1	drop
Lev. 1	miss
Lev. 1	compare
Lev. 1	performance
Lev. 2	soldier
Lev. 2	lunch
Lev. 2	lovely
Lev. 2	plastic
Lev. 2	characteristic
Lev. 2	adopt
Lev. 2	defense
Lev. 2	mystery
Lev. 2	sign

Lev. 2	entrance
Lev. 3	invent
Lev. 3	advertising
Lev. 3	grand
Lev. 3	rider
Lev. 3	phase
Lev. 3	twist
Lev. 3	emphasize
Lev. 3	ozone
Lev. 3	invention
Lev. 3	headline
Lev. 4	chapter
Lev. 4	planning
Lev. 4	extensive
Lev. 4	negotiate
Lev. 4	prior
Lev. 4	inspector
Lev. 4	raid
Lev. 4	oral
Lev. 4	scandal
Lev. 4	combined
Lev. 5	widen
Lev. 5	planned
Lev. 5	guardian
Lev. 5	grind
Lev. 5	corps
Lev. 5	cylinder
Lev. 5	delightful
Lev. 5	allegedly
Lev. 5	moderate
Lev. 5	injunction
Lev. 5	momentum
Lev. 5	majesty
Lev. 5	peripheral
Lev. 5	motorist
Lev. 6	understandable
Lev. 6	farewell
Lev. 6	denote
Lev. 6	campaigner
Lev. 6	retort

Lev. 7	generator
Lev. 7	emotionally
Lev. 7	secrecy
Lev. 7	imagery
Lev. 7	bedside
Lev. 7	grandchild
Lev. 7	boxer
Lev. 8	antiquity
Lev. 8	validation
Lev. 8	unaffected
Lev. 8	undue
Lev. 8	elector
Lev. 8	oppressive
Lev. 8	impending
Lev. 8	twilight
Lev. 8	cuff
Lev. 8	poultry
Lev. 8	tenderness
Lev. 8	beak
Lev. 8	ordinarily